

## 「助け求める」という方法

三年生が日帰り、白川郷と高山を訪れました。修学旅行の代替えということとで実施しましたが、これまで多くの行事の中止の告げてきたときとは違い、久しぶりに三年生の楽しそうな表情を見ることができ、正直言って私はほっとしました。

高山での班別行動で、一部の女子生徒が方角を見失い、集合時間に間に合わなかったということがありました。これはあくシデントですので、時間行動が守れなかったと一概には言えません。むしろ、私はその生徒たちを褒めたいと思いました。

彼女たちは、見知らぬ土地で道に迷い、さそや不安だったことでしょう。集合時間も迫ってくる中、焦る気もちも膨らんだことと思います。そんな状況の中、あなたただだったらどうしますか。人ごとと考えないように、私はぜひとも「自分だったら」と仮定して考えてもらいたいと思います。

彼女たちが採ったのは「助けを求める」という方法でした。走り回っても集合場所に戻れるという保証はありません。かといって、見つけ出してもらうのを待つだけでは、いつのことになるかわかりません。そこで、彼女たちは近くにいた方に事情を説明して携帯電話を借り、緊急連絡先に電話をかけたのです。

その方法を選択した機転と、一般の方に話しかけた勇気を、私は褒めたいと思います。人間は、ピンチに陥ったときに生き抜く力があるかどうかかわかると言います。私は彼女たちにはその力があったとわかり、頼もしさを感じました。

中学生の人間関係は限られています。仲間、教師、家族が中心です。その中で、常に守られる生活を送っているので、いざというときに適切な判断や行動ができないことが結構あります。試験当日受験票を忘れ、親に電話しても通じないのでパニックになった生徒。どの電車の乗ってよいか判断できず、特急に乗って遙か遠くの駅まで行ってしまった生徒。東京での班別研修で、時間がないことを理由に訪問予定の企業訪問を勝手にドタキャンした生徒。……うそみたいな話ですが、過去にはこんな生徒もいたのです。

受付で受験票を忘れたことを相談する。駅員に停車駅を尋ねる。訪問予定の企業に遅れる旨を連絡する。たったそれだけのことでですが、できるかできないかで大きな差が生まれます。今回の女子生徒たちはこれから先はもう大丈夫ですね。でも、どうしても女子だけが迷ったのかな？男子とは一緒ではなかったのかな???

(十一月九日記)



かかしと一緒に (白川郷にて)